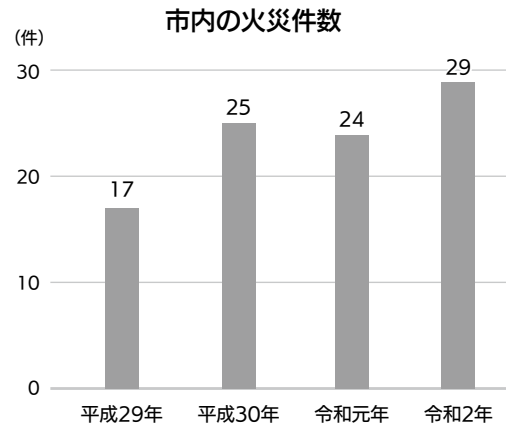


秋の全国火災予防運動 11/9～15

2021年度全国統一防火標語 『おうち時間 家族で点検 火の始末』

火災予防運動は、火災が発生しやすい時季を迎える秋と春に、火災予防思想の普及や火災の発生防止を目的に行われる、全国的な啓発運動です。

日頃から一人一人が火の取り扱いに責任を持ち、火災予防に努め、安心・安全な国東市を目指しましょう。



増加傾向にある市の火災件数。日頃の防火意識が大切です。

令和3年(2021年) 1～9月 出動件数		
		
火災出動 25 件 (前年同期 23件)	救急出動 1,109 件 (前年同期1,032件)	救助出動 13 件 (前年同期15件)

出火の上位3原因 (令和2年)

- 1 枯れ草焼き (11件)
- 2 ごみ焼き (5件)
- 3 電気ショート (3件)



「枯れ草焼き」が突出

枯れ草焼きをする場合は、次のことに注意しましょう

- ・強い風がある日や空気が乾燥している日は行わない。
- ・風の向きや強さに気を付け、燃やす時間は短時間で。
- ・水や消火器を準備し、完全に消化するまではその場を離れない。
- ・火災とまぎらわしい煙が出る場合は、消防署に届出をする。

まちの“赤い守護神”消防車両

市の消防署にはさまざまな消防車両が配備されており、日夜問わず市民の安全を守っています。

消防ポンプ車 (各消防署に配備)

消防活動の中心となる車両。防火水槽、川、池などからホースで水を吸い上げ、放水して消火活動を行います。



指令車 (消防署本署に配備)

災害現場に出動した消防隊を指揮する車両。災害現場と消防本部をつなぐ通信機器を備える、現場の司令塔です。



救助工作車 (消防署本署に配備)

災害現場に取り残された人や、交通事故で車に挟まれた人などを救助する車両。救助隊(レスキュー隊)が使用します。



化学消防車 (南分署に配備)

自動車、工場、航空機など、水では消火が難しい危険物火災に対して、薬剤を使って消火活動を行う車両。水槽も装備しており、一般火災にも対応できます。



特集 熱い心で 火災を防ぐ



市内では過去10年間で、年間平均約23件の火災が起きています。火災が起きると、真っ先に現場に駆け付けるのが消防職員です。炎に立ち向かい、消火活動や救助活動を行います。まさに、危険と隣り合わせの、命がけの業務。過酷な現場での活動を可能とするのは、厳しい訓練に裏打ちされた強い精神と肉体です。市民の命を守るため、消防職員が訓練を欠かすことはありません。

市消防本部の調査によれば、市内での火災の発生は、冬季が最も多くなります。そこで、市消防本部では、毎年11月の「秋の全国火災予防運動」に合わせて、火災予防意識を高める啓発活動を行っています。いま一度、消火器や住宅用火災警報器の点検など、身近な火災対策を確認してみましょう。「火災を起こさない」という市民の皆さんの強い決意と、消防職員の熱い心が、このまちを火災から守ります。

